

911.3
x
上

細野撰
三葉軒
撰
明治
歲時
記
桑
州
上

新撰仙譜

明治

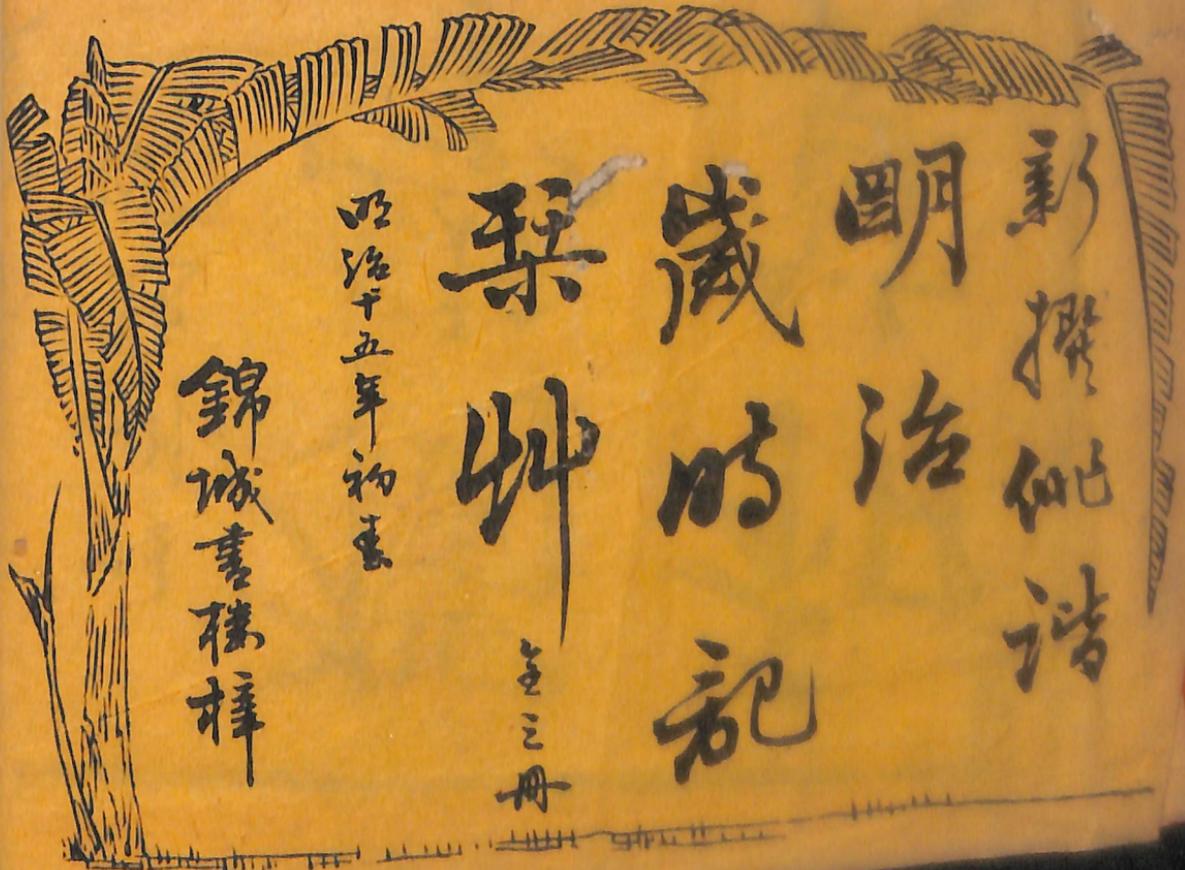
歲時記

樂艸

卷之冊

明治十五年初春

錦城書樓梓



花之下神詠

久見老翁著

五十二人 垣根之丸

吾村和子 都路重

東雲 琴子



五親子... 此陶像... 天祿... 乾也... 其一... 載寸

文強堂主人

世の中の

あり

た

春の夕

行

比御書の初字より後らなる
 ことありしや。或は式目や
 乃は式目や。或は式目を
 或は式目を。或は式目を
 とまへん。或は式目を。或は式目を
 傷き問ふ。或は式目を。或は式目を
 事なり。或は式目を。或は式目を
 大人樂の。或は式目を。或は式目を
 て初字より。或は式目を。或は式目を
 甲馬の。或は式目を。或は式目を

おしりく得ようを自の務補てよ
もはつらつとあつて首を
二條のまの初めううを極
まうまの太極なうの同
らまうまのうのうのう
こつた人のうのうのう
あつたのうのうのう
うのうのうのうのう
うのうのうのうのう

壬午年二月 春 湖

俳諧を考むの騷人必也
今の的直を要と今文華

開明の秋の霜の陰曆革

大湯著とがる先軍編述の歳

財記禁州有と難の紛索重敷

して着岸を失ふ固てふは吾楠

原の主再び精選一々革曆

秘ふを得せむる又校訂

をこし是を吾を還るは頗

正訂巻亮のまを附るゝ詠句
を舉たり真の範徒の軌範
と言ふへし此道一進志の
士一日も措へらるべし和の
玉といふへし此言を以て序の
先づ爾

明治十五年壬午春二月

等裁 

凡例

一 全書七編ハ俳諧の諸式を
巻題を注釋し諸の初
假字以て分ち初心の御
難共六標語を加へ次より
表波三段の妻格を因縁
切りの續く辭の意を説
語考證句を採りて能初心
の御しや寸死を旨とす並
るゝ切字ハ語句數百を
考けおしむる位式の辨裁

をかくるなり 今全編を寸

一此書子類ひすなり 仰書世も多
しやうと云ふ大方ハ 經學者哉
仰者等の新い書肆の價
ひを受むの爲古書より 採
革し以て私意を加へ一編
を成たると有のこゝ多し故
陰翳と缺憾足を添ひて
却て初心を感ずるに至る況
知尔者波よ 於る以て其の
域よりしるやう者 僅り

八衢の一節を少くして 限りま
言の善は道と彼も何ら寸
是よりあらはれ 抑櫻よ古人の句
よ意を以て其意と失ふた
もサ一とせ寸此書手。尔。表
波ハ橋と致友人の 助辞本義
一覽若杖の義門大徳の 活
指指古武苑の 黒原翁磨
友人の言靈抄等の 書照
準して昔儀 活法用と云ふよ
櫻ねる書なれハ 此道よ

得て予は推して本と其の意を
 見く彼と推して其の意を
 其の如く以下を推して
 上中下と其の寸故に古海の流を
 故て脱除せされれば其の
 見く

一本文中尚委しきハ他社手
 表波揮ひの依るるを
 ハ近刻すしき書とす

明治十五年三月 香楠居士の跋

新選 俳諧 明治歳時記栞艸

目録

○卷之上

俳諧諸體之略解

- 千句式
- 米字式
- 易行式
- 長歌式
- 歌仙行式
- 十八公式
- 句數之事
- 百韻式
- 七十二候式
- 源氏行式
- 四十四式
- 短歌行式
- 首尾行式
- 句去之事

四季之季寄

目録

○壹

○一月	八丁	○二月	十丁
○三月	十三	○四月	十五
○五月	十七	○六月	十九
○七月	廿一	○八月	廿四
○九月	廿五	○十月	廿八
○十一月	卅一	○十二月	卅四

○卷之中

○去嫌之式	○天象
○聳物	○降物
○風體	○火體
○夜分詞	○非夜分詞
○山類詞	○非山類詞
○水邊詞	○非水邊詞

○神祇詞	○非神祇詞
○釋教詞	○非釋教詞
○兩部詞	○人倫詞
○非人倫詞	○居所詞
○居所用詞	○非居所用詞
○動物	○植物
○不高植物	○支體
○不低植物	○旅體
○病體	○器財
○食類詞	○器財
○書體	○衣食類
○非衣食詞	○戀詞
○非戀詞	○述懷詞
○非述懷詞	○無常詞

○名 所 ○字去部

○字去別吟 ○附字之事

○賦物之事 ○月之句作心得

○花之句作心得 ○褒美之正花

○非正花分 ○天尔越波大聚

○卷之下

○發句切字 ○本辭圖 辭一變圖 全三變圖

○辭一變之部 ○辭二變之部

天爾越波証句

○哉之部九丁 ○や之部十二

○し之部十五丁 ○もれし部十丁

○ト之部十丁 ○なをうりなを全上

○りり 全上 ○あり 全上

○るる 全上 ○をや 全上

○やう 十七丁 ○らん 全上

○こそ 全上 ○ひも 全上

○又 ○をね字 全上

○そ 全上 ○つ 全上

○よ 全上 ○り 切字表 二 なをきく句 全上

○そり ○し 切字表 二 なをきく句 全上

○早のぬ 十九丁 ○し 切字表 二 なをきく句 全上

○す 全上 ○ま 切字表 二 なをきく句 全上

○し 切字表 二 なをきく句 全上

○歌仙 ○連句

○三物 ○和漢

○半歌仙 ○表合

○裏白 ○百韻

新選 俳諧 明治歲時祀梨草卷之上

東京 小築庵春湖 閱
全 香楠居幹雄 編
全 佳峯園等裁 校
大阪 黃華庵南齡 校

一 俳諧之式

千句 百韵 未字 七十一條 易行
源氏行 長歌行 四十四條 歌仙
短歌行 十八公 百韵 尾 歌仙 尾
裏白 面合 三物

○ 千句式

百款十卷有り 表向 四季 春三句

夏二句 秋三句 冬二句

○ 百韻式

一 面八句 初表と云 七月日月の空

二 面十句 十三句日月

裏十句 初裏と云 九月日月 十二月花の空

二 裏十句 初裏と云 九月日月 十二月花

一折 三箇十句 二巻同く 十五句目

一折 名跡面十句 二巻同く 十三句目

右四折合て百約なりと初の二折と子約と云

三裏十句 二巻同く 十五句目

裏八句 七句目花の五折 七句目花

○米字式

一折 面八句 初巻と云 七句目月の五折

裏十二句 七句目月 十五句目花の五折

二箇十句 十一句目月

二裏十二句 初巻同く 七句目月 十一句目花

三箇十句 二巻同く 十一句目月

三 裏 二巻同く 七句目月 十一句目花

名跡面十句 二巻同く 十一句目月

裏八句 七句目花の五折

右四折十句七花四なり按らるに米をひひ作ると
以て後々基とて後世好事者の作りおたるとのなり
と

○七十二候式

ははる約乃中三の折面裏共一折二句八句極と云と此そ
跡て七ナ百是なり月花の五折と百約と云けり

易行式

面八句 七句目月

裏十二句 七句目月 十一句目花

二箇十句 十一句目月

二裏十句 初巻同く

名跡面十句 二巻同く 十句目月

名跡裏八句 七句目花

右二折月五花三なり

○源氏行式

一折 面六句 初巻と云 七句目月の五折

裏十二句 初巻と云 七句目月 十一句目花の五折

一折 二箇十句 十一句目月

二裏十二句 初巻同く 七句目月 十一句目花

名跡面十句 二巻同く 十一句目月の五折

裏六句 七句目花の五折

右三折三月五ツ花六の歌仙の法の如しは六音仙とての
折二十四句添くこと五折なり

○長歌行式

面八句 七句目月

裏十六句 九句目月 十一句目花

名跡面十句 十一句目月

名跡裏八句 七句目花

以て三折月三花二なり

五句目 八 月の空に花の月をかくし月をかくして月
又花をかくして花をかくして

六句目 八 花をかくして花をかくして花をかくして花をかくして
花をかくして花をかくして

一ウ 見たり袖裏とて裏南ともいふ
は次詩紙程を忘るべきは後おぼしきもよし

阿け句 八 井ともさしとともさしゆる物事の終の句なり
意の句なり阿け句も意なり詩紙の句なり井
紙うまへし解も意にならふ

句数月花の言はたふまにありて載はれおぼしき
まう載る句假仕やうもく味ひありし

○首尾行式

歌仙 初表 六句 五句目月 合して十二句なり

百韻 初表 八句 七句目月 合して十二句なり

裏白 八句 表はるまじきふ 面合 六句
表斗まもあつた
神紙忘るる意地
名も後にもあり

三ツ物 後句 胎。第三。また三句まらむの二序二の物身心
得ありし

月 後句 胎り第三にやうも時を初表の月とせし

花 後句 胎り第三にやうも時を初表の花とせし
梅の標と花の社にまへし又他の標物やもかし

但正花の第三とせし男より初表の月
也

後句 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

若句 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

合席 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

連句 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

一順 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

聯 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

回島 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

前句 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

遅吟 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

巻頭 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

即踏 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

加筆 胎り第三とせし男より初表の月
有り無し

非若之式

上

〇四

いふる白まきり面折とせても同じ目まきり付白も
つらも音訓ありて別段なれを付ても音一の以大
概二白まきりのまきり三白まきり本の家と本の家一
方桂物をれも二白まきりとて智一

月松竹田夢涙枕衣

紅烟同孝いふる白まきり面折とせても同じ目まきり

同増補新撰

父母男女人信の凡例あり 主誰シエ

獨ヒトリ 煤ホカキ 借ソウ 奇テラ

人信ヒトリ 親王ヒメミコ 天童テドウ

天女テンシヨ 帝ミカド 仙洞セントウ 新院シンイン 佛ホトケ

鬼オニ 子規ホノギス 水仙スイセン 水雞シヒナ

蛙ミヅカキ 尾上ヲノヘ 雷カミナリ 雨アメ

魚イサ 車クルマ 飯イシ 餅モチ

松マツ 子規ホノギス 松虫マツシ 水仙スイセン 水雞シヒナ

名詩固名在名る或は官名苗字人名を
とれ吟詠の名ありけり此水色山松小洲
はそまゝの作と通らるり

時々此草木葉物白鉄金物なれども春
を坊やぐら柱物と通らるり魚も秋も春
物なれども春を坊やぐら初物と通らるり
紋ふ成る種松のふらと春を坊やぐら
と通らるり

釋奠 まはら二成 春 後との 林

喜笑 まはら二成 春 後との 林

雛 まはら二成 春 後との 林 但やうら

孝の順 まはら二成 春 後との 林 とらるり

古代より初表の因縁ひまら物の中ひ下

人の名のことや漢字家 今も 武家上或を

吾人儒者医者百姓町人能役者職人中の

神祇釋教意等 ジユツクイアイシヤム 春 後との 林

古人の名に表の内春 今も 武家上或を

うとく 今も 武家上或を

春 後との 林

野 今も 武家上或を

春 後との 林

十二作 今も 武家上或を

連俳 今も 武家上或を

棟 今も 武家上或を

して詩歌の作をわたりて是様

なる事と見出し俳諧と雑札をいふ
 時の甲子正月元日より十二月まで
 詳細に記載し不通なる事記さる
 俳句のこゝに在る事とて取らば此後
 かる約の春句に後句なると考れば
 けり如く句と継て面八句裏十四句元日
 去嫌わ考ある約の法式ありと述(一)
 てる約法に次て後二百約式後三百約と
 考なり

但俳無うつり二百去句考れば物式五
 句去七句去面去折去物と考く二百去
 ことと考なり

四季部

一月	大呂律	小寒	節	大寒	中	殷正
抄冬	孝冬	臘月	菴首	歳始		
肇年	改年	甫年	更始	年始		
復新	新正	履端	開端	改旦		
歳始	聖旦	上白	雜旦	端月		
睦月	初室月	祝月	春室月	元日		
元日	元旦	三始	三元	三初		

元日以下子亥をわいて
 お遷すれとも幣を懸と考

新正 一 孝冬 一 臘月 一 菴首 一 歳始 一
 睦月 一 初室月 一 祝月 一 春室月 一 元日 一
 三始 一 三元 一 三初 一

初室 一 初日 一 初室 一 初室 一
 手額 一 手額 一 手額 一 手額 一
 四方辨 一月一
 玄刻法

在殿東階の前には扇風を建四とし中は中材と考り考
 燈と考(一)はあまて天宮親分は辨の式あり天地四方ぬいひ

大忍術 初四 初五 初六 初七 初八 初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 廿一 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十

破産手 ともや

松喰

養子 養子

手鞠 ともや

羽子板 ともや

こまのふ

花開

ちの高

お節

葩花

お館

まき所 一本

竹筒 ともや

福あそび

貝あはれ

連歌 ともや

三ヶ日

初芝居

くけり

無忍文

七種

鏡開

おひき

七種

夜来 ともや

おひき

福まじ

白馬

おひき

早橋 早咲一冬一

雪のハ一季

春

大碑 帝 句芒 神 蒼天 青帝

車皇 左君 治光 夏正

陽公

二月

大簇 律 立妻 古 雨水 中 孟春

早春 新春 舊春 缺春 首春

立春 規春 開春 春陽 初陽

少陽 孟陽 新陽 孟辰 辰月

睡月

春日 一日 校園 入口 村戸 入口

新正 祖幣 初庭より各社に参り初日の入りなり或は初日の入

大至 野鳥 八日 紀元 正月十一日 神武王

曾北は平信のりを大福壽と持歩

仁春を白と云 秋百

鹿 村 一の石 一の石 一の石 一の石

一の谷 一の石 (難)

音石 一の石 一の石 一の石

水解 長閑 風光 斜雪

東風 山知 山知 山知

柳之 鳥 鳥 鳥

百子香 鶯 鶯 鶯

春鷹 鶯 鶯 鶯

鶯 鶯 鶯 鶯

鶯 鶯 鶯 鶯

鶯 鶯 鶯 鶯

鶯 鶯 鶯 鶯

ウツホリノホ
魚水ノ音

カハカン
糞魚ノ音

ハルコ
海魚ノ音

ハチノ
朝融ノ音

カミヤ
規曲ノ音

ハルコ
春釣ノ音

ハチノ
屋敷ノ音

カミヤ
梅ノ音

ハルコ
梅ノ音

ハチノ
おの音

カミヤ
おの音

ハルコ
おの音

三月

夾鐘

律

鶯

春分

仲春

陽中

春中

四陽

中和

中陽

春中

花朝

今月

初月

衣更

木の芽

一挿

種物

弟者

油音

あま

あわ布

油音

あま

弟の芽

日永

あま

一萌

日永

あま

えんが

えんが

あま

佐佐木

あま

梅見月 小正月

出雲雲 一日 吉野の怪配 日 久百雲 初午

行基集 遺教經 九日 常樂舎 十廿日

檀炬火 十廿日 比叟公儀 四廿日 祇園八講 七日

列見 十廿日 二月廿九日 初午 初午

二月廿九日 初午 初午

沙石 廿四日

山師 廿四日

主佐 廿四日

初午 初午

初午 初午

初午 初午

小正月

吉野の怪配 日 久百雲 初午

遺教經 九日 常樂舎 十廿日

比叟公儀 四廿日 祇園八講 七日

初午 初午

子二九丸指も

頭念佛 彼居 時分 涅盤舎 四廿日

佛の列 彼居 中より三日の時中しんしん

治世酒 社り酒とあめ耳のを

二百天 社り酒とあめ耳のを

棲塔 十六日 龍巻

初雷 初電

煙舟の序

煙舟の序

水巻橋 初電

栢脊

栢のあま

栢のあま

栢のあま

川より松と流し川下りて松流き事。油干 佐若 加た
油乾を焼くはては松ととり油のむねあり 品川など

蛇ひりよ 土佐の海 己巳の夜 ありの白川をよむて夜津津
硯石を

源一の後 同 上 關難 二日 経巻 二日
スマ

廣瀬 四日 新田 四日 後王 四日
ヒセ

大津 九日 杉原 九日 方旗法 四日
ミワ

やまひむ 日吉 十日 善寺 十日
ヤ

吉野の合式 壬生 十日 佛 十日
エシキ

加茂 十日 山味 十日 嵯峨大念佛 十日
カモ

子午念佛 十日 念佛 十日 吉田 十日
チ

松原 十日 人丸 十日 古武 十日
ウ

の松也 十日 沙 十日 古武 十日
ノ

高野の女宿 十日 順の男 十日 古武 十日
タ

おとしの岩の斗を後とまことり 古武 十日
オ

かりは夏火のこあけり 古武 十日
カ

おとしの岩の斗を後とまことり 古武 十日
オ

川より松と流し川下りて松流き事。油干 佐若 加た
油乾を焼くはては松ととり油のむねあり 品川など

蛇ひりよ 土佐の海 己巳の夜 ありの白川をよむて夜津津
硯石を

源一の後 同 上 關難 二日 経巻 二日
スマ

廣瀬 四日 新田 四日 後王 四日
ヒセ

大津 九日 杉原 九日 方旗法 四日
ミワ

やまひむ 日吉 十日 善寺 十日
ヤ

吉野の合式 壬生 十日 佛 十日
エシキ

加茂 十日 山味 十日 嵯峨大念佛 十日
カモ

子午念佛 十日 念佛 十日 吉田 十日
チ

松原 十日 人丸 十日 古武 十日
ウ

の松也 十日 沙 十日 古武 十日
ノ

高野の女宿 十日 順の男 十日 古武 十日
タ

おとしの岩の斗を後とまことり 古武 十日
オ

かりは夏火のこあけり 古武 十日
カ

おとしの岩の斗を後とまことり 古武 十日
オ

ついでに うきうき
 山吹衣
 とうとうぬい ー ーの竹 ーのきと ーのき
 けいあきあ ー ーをて ーをて ーはき ーのけ
 ーの別 ーの名所 ーのあつらふ 夏とらふ
 ーとさき 夏とらふ 三日月

夏

炎帝 エンテイ 日長 ニチノチカ 祝融 シユウジュウ
 赤帝 セキ 昊天 カウテン
 朱明 シュメイ 熾日 シツツ 蒸砂 シヨウシヤ 踏躑 ハイセキ
 苦短 クタン ヨ

五月

仲呂 チウリョ 律 リツ 三夏 サンカ 小滿 セウマン 中 チュウ 孟夏 マウカ
 初夏 シヨカ 首夏 シュカ 早夏 ソウカ 新夏 シンカ 純陽 ジュンヤウ
 正陽 セイヤウ 清和 セイワ 暮秋 モクシュウ 乾月 ケン 結月 トツトバ
 余月 イヨ 卯月 ウ 卯花月 ウハナツキ 花名卯月 ハナナゴリ
 孟夏 マウカ 旬 ジン 四一〇天より輝修八局
 の節夜 ノノツヨ 暮夏 モク夏 下ケ節 ゲケセツ 清和 セイワ 〇一〇より三修和
 ちつは 暮夏 モク夏 一とを甲申若くは是修和ける代

初務

ハツアハセ
 初務 ハツアハセ 一日を白○筑摩の井氏
 の初務を被るるを初務とす
 を修して一個務を初務とす
 ミツヤノウ 四三〇 四〇 五〇
 水屋能 ミツヤノウ 水屋能 ミツヤノウ
 水屋能 ミツヤノウ 水屋能 ミツヤノウ

初務

初務 ハツアハセ 一日を白○筑摩の井氏
 の初務を被るるを初務とす
 を修して一個務を初務とす
 ミツヤノウ 四三〇 四〇 五〇
 水屋能 ミツヤノウ 水屋能 ミツヤノウ
 水屋能 ミツヤノウ 水屋能 ミツヤノウ

初務

初務 ハツアハセ 一日を白○筑摩の井氏
 の初務を被るるを初務とす
 を修して一個務を初務とす
 ミツヤノウ 四三〇 四〇 五〇
 水屋能 ミツヤノウ 水屋能 ミツヤノウ
 水屋能 ミツヤノウ 水屋能 ミツヤノウ

初務

初務 ハツアハセ 一日を白○筑摩の井氏
 の初務を被るるを初務とす
 を修して一個務を初務とす
 ミツヤノウ 四三〇 四〇 五〇
 水屋能 ミツヤノウ 水屋能 ミツヤノウ
 水屋能 ミツヤノウ 水屋能 ミツヤノウ

杜和堂 日上 梅之堂 日上 大津堂 上二天

山崎屋 四上 平あま非堂 上午 久世堂 山崎

山科堂 山崎 恒吉印堂 上軒 南堂 上内

山本 中中 山本 口 菅之堂 中軒

虎杖院 山崎 山本 中中 土屋舎 大坂

ろくろ屋 山崎 山本 中中 花作 大坂の社と

天をり 山崎 山本 中中 山本 中中

子規 山崎 山本 中中 山本 中中

那とむま 山崎 山本 中中 山本 中中

蟹蟹 推御蟹の子

菅附子

老常 丸一 卯のむ 一二月 雪のー

夏本立 夏本立 竹花 砂のむ

新樹 新樹 柑子花 椛相の花

法本の花 法本の花 椛相の花 椛相の花

橘のむ 橘のむ 椛相の花 椛相の花

牡丹 牡丹 牡丹 牡丹

芍薬 芍薬 芍薬 芍薬

花のむ 花のむ 花のむ 花のむ

凡車 凡車 凡車 凡車

白丁 白丁 白丁 白丁

四季部 五月

解蜜醬 推鈕 蟹の子

常附子

老常 丸一

灯の毛 一二月取 一十月取 雪の一

一 とも相つき

夏本立 一ツコガチ 玉葉山 竹花 砂の毛

あまの花

あまの 一ツの楓 玉栢 玉栢 玉栢

新樹

柑子花 楡相の花 大身母の花 楡の花

法本の花

法本の花 楡相の花 楡相の花 楡相の花 楡相の花

楡の毛

楡の毛 楡の毛 楡の毛 楡の毛 楡の毛

楡の毛

燕子花 草のはきりも 一ツの毛

牡丹

牡丹 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹

芍薬

芍薬 芍薬 芍薬 芍薬 芍薬

十とりて津佐よ 八坂糸 十廿五 札幌糸 十廿五
備ふりなり 山城 石指

熱田糸 廿五 有母の白 四廿五 村よきを馬白
はりほれを終日持参な

一物まとも持参なるとふけしめまもまきさなり備て備
参り又なりとの心なりとを

巨首は国柱 日 山内国柱 日 大後 二十日
オホハラヘ

住吉糸 日 八坂糸 日 虎の涙雨 四廿八日
トラ ナメア

家勝洋 日 法味殿 日 半長生 十廿五
ハンゲシヤウ 五五出より
土のめ

おけりさき 日 丹後志津郡志津の志津糸 日
トコおけりさきとわか

早月雨 日 三ツイ 日 二ツイ 日
ツイ 日 三ツイ 日

喜梅 日 梅子 日 梅子 日 梅子 日
梅子 日 梅子 日 梅子 日

法本糸 日 法本糸 日 法本糸 日 法本糸 日
法本糸 日 法本糸 日 法本糸 日

法本花 日 法本花 日 法本花 日 法本花 日
法本花 日 法本花 日 法本花 日

羽指糸 日 羽指糸 日 羽指糸 日 羽指糸 日
羽指糸 日 羽指糸 日 羽指糸 日

法本花 日 法本花 日 法本花 日 法本花 日
法本花 日 法本花 日 法本花 日

精川 日 精川 日 精川 日 精川 日
精川 日 精川 日 精川 日

常盤糸 日 常盤糸 日 常盤糸 日 常盤糸 日
常盤糸 日 常盤糸 日 常盤糸 日

虎の足 日 虎の足 日 虎の足 日 虎の足 日
虎の足 日 虎の足 日 虎の足 日

照村 日 照村 日 照村 日 照村 日
照村 日 照村 日 照村 日

魚糸 日 魚糸 日 魚糸 日 魚糸 日
魚糸 日 魚糸 日 魚糸 日

地糸 日 地糸 日 地糸 日 地糸 日
地糸 日 地糸 日 地糸 日

毛虫 日 毛虫 日 毛虫 日 毛虫 日
毛虫 日 毛虫 日 毛虫 日

早丸 日 早丸 日 早丸 日 早丸 日
早丸 日 早丸 日 早丸 日

田桂 日 田桂 日 田桂 日 田桂 日
田桂 日 田桂 日 田桂 日

四季部 六月 上 〇廿一

七月

林鐘 律 少暑 長 大暑 中 季夏 小暑 長

睦夏

永夏

九陽

瓜期

旦月

遯月

二陰

陽冰

水月

亥月

風結月

三陰

為膏

結陽

凍月

建勳系

賜冰白

冰の貢

氷室

一振酒

氷餅祝

祇園會

靖國社

祇園會

六月會

安房祭

津川祭

津川祭

津川祭

津川祭

津川祭

津川祭

津川祭

津川祭

江戸山王衆 四十音 夜多ふ日 坊多ふ日 四十音

吉子流法 世の上 任頼お礼 四十音 度摩屋 四十音

オタキ せりふり流 四音 楊三ふ 四音 唐橋宗 四音

便吉は後 日 加茂お音流 日 信火衆 日 大後 音

これとてお音ふ大籠 夏中樂 大後 音

雷乃陳 音 雷乃陳 音 雷乃陳 音

涼 音 涼 音 涼 音

四條の涼 音 四條の涼 音 四條の涼 音

南雲の涼 音 南雲の涼 音 南雲の涼 音

泉 音 泉 音 泉 音

温泉 音 温泉 音 温泉 音

砂橋 音 砂橋 音 砂橋 音

夕立 音 夕立 音 夕立 音

去用干 音 去用干 音 去用干 音

梅の花 音 梅の花 音 梅の花 音

夕靨 音 夕靨 音 夕靨 音

梅若 音 梅若 音 梅若 音

三伏 音 三伏 音 三伏 音

梅若 音 梅若 音 梅若 音

雷丸 薄く切し湯に漬けて乾燥し、細く切す。川草も同様。

涼 目録に「涼」あり。川草も同様。

赤きくみ 摩きくみ

四條の涼 川の岸に生ずる草。紅乃一と云ふ。

紅乃一 紅乃一と云ふ。六月の草。涼に似たり。赤きくみ。

清水 一と云ふ。一と云ふ。一と云ふ。

砂糖 糖あり。糖あり。糖あり。

夕立 白雨。夕立。夕立。

三伏 夏夏の最中。三伏。三伏。

去用干 虫干。去用干。去用干。

法本の実 楊梅。法本の実。法本の実。

拵子花 瞿麦。拵子花。拵子花。

附干 かたじけなく。附干。附干。

蓮 蓮。蓮。蓮。

四季部七月

雷丸 薄く切し湯に漬けて乾燥し、細く切す。川草も同様。

涼 目録に「涼」あり。川草も同様。

赤きくみ 摩きくみ

清水 一と云ふ。一と云ふ。一と云ふ。

砂糖 糖あり。糖あり。糖あり。

夕立 白雨。夕立。夕立。

三伏 夏夏の最中。三伏。三伏。

去用干 虫干。去用干。去用干。

法本の実 楊梅。法本の実。法本の実。

拵子花 瞿麦。拵子花。拵子花。

附干 かたじけなく。附干。附干。

蓮 蓮。蓮。蓮。

四季部七月

秋

少皞 イノチウ 金天 キンテン 白藏 ハクザウ 金高 キンカウ 素高 ソウカウ

八月

夷則 イノチウ 律 リツシウ 孟秋 メイシュウ 商 ショウ 中 チュウ 孟秋 メイシュウ

相秋 ソウシュ 孟秋 メイシュウ 初秋 シュウシュ 首秋 シュウシュ 上秋 ジョウシュ

新秋 シンシュ 早秋 ソウシュ 蘭秋 ランシュ 明秋 メイシュ 葉月 エフゲツ

相月 ソウゲツ 涼月 リョウゲツ 女密月 メツシツ 文月 モンゲツ 夕月 セツ 夕月 セツ

水月 スイゲツ 水月 スイゲツ 水月 スイゲツ 水月 スイゲツ 水月 スイゲツ

男山 オウサン 山 サン 山 サン 山 サン 山 サン

云南 ウンナン 南 ナン 南 ナン 南 ナン 南 ナン

鎌倉 カマクラ 鎌倉 カマクラ 鎌倉 カマクラ 鎌倉 カマクラ 鎌倉 カマクラ

七夕 セツタチ 七夕 セツタチ 七夕 セツタチ 七夕 セツタチ 七夕 セツタチ

女七夕 メセツタチ 女七夕 メセツタチ 女七夕 メセツタチ 女七夕 メセツタチ 女七夕 メセツタチ

七夕の初提の事

天の川

天の川

星の海

星の海

星の海

紅雲の橋

素直

素直

乞巧

乞巧

乞巧

七種の虫

七種の虫

七種の虫

七種の池

七種の池

七種の池

池の傍七夕の草花

池の傍七夕の草花

池の傍七夕の草花

花の傍七夕の草花

花の傍七夕の草花

花の傍七夕の草花

七夕の草花

太紫 羊がく
むろく火 雲空 雲空 雲空

桐屋 子向ま 蓮花 蓮の葉 根子 枝豆 雲空

杉葉 木豆 木葉 木葉 木葉 木葉 木葉

柗植 柗植 凡の葉 木の葉 木の葉 木の葉

中元 四半 三井の女流 木の葉

焚花踊 山の雲 夏雲池 経木流

題目踊 山の雲 生月霊 木の葉

焚花 まりと 花の雲 木の葉

扇わく 木の葉 輪磨糸 木の葉

踊 木の葉 木の葉 木の葉

小結 木の葉 木の葉 木の葉

鰻 九百匹 鳩吹 木の葉

花火 正太のり

相撲 木の葉

送火 木の葉

新海の雲 木の葉

相撲 木の葉

花火 正太のり

相撲 木の葉

送火 木の葉

新海の雲 木の葉

相撲 木の葉

花火 正太のり

相撲 木の葉

送火 木の葉

新海の雲 木の葉

相撲 木の葉

花火 正太のり

相撲 木の葉

送火 木の葉

新海の雲 木の葉

相撲 木の葉

花火 正太のり

太紫 羊がく
むろく火 雲空 雲空 雲空

桐屋 子向ま 蓮花 蓮の葉 根子 枝豆 雲空

杉葉 木豆 木葉 木葉 木葉 木葉 木葉

柗植 柗植 凡の葉 木の葉 木の葉 木の葉

中元 四半 三井の女流 木の葉

焚花踊 山の雲 夏雲池 経木流

題目踊 山の雲 生月霊 木の葉

焚花 まりと 花の雲 木の葉

扇わく 木の葉 輪磨糸 木の葉

踊 木の葉 木の葉 木の葉

小結 木の葉 木の葉 木の葉

鰻 九百匹 鳩吹 木の葉

花火 正太のり

相撲 木の葉

送火 木の葉

新海の雲 木の葉

相撲 木の葉

花火 正太のり

相撲 木の葉

送火 木の葉

新海の雲 木の葉

相撲 木の葉

花火 正太のり

相撲 木の葉

送火 木の葉

新海の雲 木の葉

相撲 木の葉

花火 正太のり

相撲 木の葉

送火 木の葉

新海の雲 木の葉

相撲 木の葉

花火 正太のり

橙花 キンクワ けらけり りけり よふ 蘭 ラン りんご

芭蕉 ババウ 早稲 ワセ しろのやせ まのり まのり まのり

まんどーやけ しんご わさび まのり まのり まのり

蓮のま丸 ハス ミドフ みぎのしし みぎのしし みぎのしし

本丸のま ボケ ボケ ボケ ボケ ボケ

柿のま モモ モモ モモ モモ モモ

橘の花 イナバ 橘の花 橘の花 橘の花 橘の花

橘の花 ハナ ハナ ハナ ハナ ハナ

濃栲 シロカキ 栲 栲 栲 栲

青毛 アヲ 毛 毛 毛 毛

秋風 アキカゼ 秋風 秋風 秋風 秋風

九月 ク 月 月 月 月

桂月 ケイ 月 月 月 月

桂月 ケイ 月 月 月 月

桂月 ケイ 月 月 月 月

キフネ 四九日と六月日
下りの相 四日
アハタケ 山

シラカハ 四日
白川 山
例幣 日
栗田 山

後の月 四日
月の名 栗田月 月の名
日蓮蓮の旗 日

天馬 一條 山
石上 山
山倉 山

一の山 山
少倉 山
神田 山

三浦 山
夜合 山
伊勢 山

伊勢 山
伊勢 山
伊勢 山

キフネ 四九日と六月日
下りの相 四日
アハタケ 山

シラカハ 四日
白川 山
例幣 日
栗田 山

後の月 四日
月の名 栗田月 月の名
日蓮蓮の旗 日

天馬 一條 山
石上 山
山倉 山

一の山 山
少倉 山
神田 山

三浦 山
夜合 山
伊勢 山

伊勢 山
伊勢 山
伊勢 山

四季部十月
上
〇三十二
〇三十一

法原 初年
老母茶

柿 併子 柑

柚 併子 柑

茶 併子 柑

冬

新茶 併子 柑

十一月

應鐘 律 立冬 霜 小雪 孟冬

折木 柁陽 初冬 新冬 早冬

亥冬 上冬 春心 虹藏 始冰

正陰 陽月 小春 正月 午陽の月

一九月 初霜 小雪 亥月 仔葉冊外

律のやうに打のきりたるやうにもなる由候説なり

陽なき月候事月なりと申す

律送 一日 律の律 律の節 律集 律の律

ら候事なるも在者より用ひ事し

まを繋ぐ候事

天皇の御座在 遠慮忌 水戸祭 律集

身福も法も忌 今皇御祭 今皇御祭

維摩忌 今皇御祭 今皇御祭

孟冬

早冬

始冰

午陽の月

仔葉冊外

律集

律の律

水戸祭

今皇御祭

今皇御祭

今皇御祭

今皇御祭

應鐘

柁陽

上冬

陽月

初霜

律送

天皇の御座在

身福も法も忌

維摩忌

身福も法も忌

維摩忌

立冬

初冬

春心

小春

小雪

律の節

遠慮忌

水戸祭

今皇御祭

今皇御祭

今皇御祭

今皇御祭

孟冬

早冬

始冰

午陽の月

仔葉冊外

律集

律の律

水戸祭

今皇御祭

今皇御祭

今皇御祭

今皇御祭

日蓮法親王 十夜念佛

法勝寺 大乗寺

東福寺 西山忌

下元 早者忌

結魂忌

新嘗祭

初霜

源雨

初霜

ウツク

ウツク

ウツク

ウツク

ウツク

ウツク

ウツク

細代 アジロ 一木 一人 進燭炭 唐の式

炭 スミ 一電 一燭 一俵 一桶 一火

榎 カネ 一佐倉 一釜 一鐘 一火

楮 ホ 一皮 一木 一皮 一木 一皮 一木

落葉 オチ 一葉 一木 一葉 一木

川 カハ 一水 一木 一水 一木

麦 カハ 一穂 一穂 一穂 一穂

印 シ 一印 一印 一印 一印

菜 ナ 一葉 一葉 一葉 一葉

鴨 カモ 一羽 一羽 一羽 一羽

水 ミヅ 一斗 一斗 一斗 一斗

子 コ 一子 一子 一子 一子

考 カウ 一考 一考 一考 一考

ちりくき

常のり ウキ 一常 一常

鯉 コイ 一魚 一魚 一魚 一魚

水魚 スイ 一魚 一魚 一魚 一魚

茶 チヤ 一茶 一茶 一茶 一茶

紙子 カミ 一紙 一紙 一紙 一紙

華 カハ 一華 一華 一華 一華

今衣 イマ 一衣 一衣 一衣 一衣

紙子 カミ 一紙 一紙 一紙 一紙

華 カハ 一華 一華 一華 一華

今衣 イマ 一衣 一衣 一衣 一衣

紙子 カミ 一紙 一紙 一紙 一紙

十二月

霜降 律

大雪

冬至

仲冬

天心

霜晨 成冬

芸生

冬宵

陽復

啓初 星紀

氷壯

霜初

子月

幸月 暢月

復月

霜月

天官月

非樂月 霜降月

霜のり月

霜見月

朔旦冬迄

四年百冬を占むれば百九十年の霜を占む

一陽復

十月す陽の月にて冬即より陽復後止と云

子月の末てつてりの冬と云ふと云

霜と秋を

曉之宿と云ふ

芝居影世 空冠馬

神叩

つげ稲とやまて踊るなり

好意

袴意

大河濱

報恩濱

四月の十七日廿八日の申祭より其より廿九日を七日の大

大師濱

里津樂

其申の卯の津樂と云ふ

おのつらふ

早秋

株物

杖屋

絆弓

萩

大花濱

本橋

さのそり

少爺濱

うし枕

あけまき

加神廻

まじりこ

酒名分

法社

非之目次

帮名

後桃園

新玉津

老松

大坂

新玉津

大坂

山神

山神

大坂

高橋

高橋

高橋

中山

松尾

山科

東三條沖樂

ワトク

南麻糸

口

平助糸

四半

素白糸

口

吉田糸

四半中

日吉糸

口

松中糸

四半

車川糸

四半角

日吉降時

四半角

賀茂降時糸

口

之島角の糸

口

國韓沖樂

ソノカラカッタ 四半角 以上千の糸を杖を振り回してま
とまむしその時高くの糸をひいてはたき

雷

このむ 雷のむ くるびく雷 ぐら雷 雷の葉
一つで 一つで 一つで 一つで 一つで 一つで

ちびり

一つで 一つで 一つで 一つで 一つで 一つで

雷

雷の葉の糸を振りまき

吹雪

雷を風の吹雪か後にそよ風を吹雪か

うののち

雷を風の吹雪か

氷

氷柱の糸を振りまき

氷

氷柱の糸を振りまき

氷

氷柱の糸を振りまき

おの毛と捨ひ合はせ

合をり

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

おの毛と捨ひ合はせ

合をり

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

おの毛と捨ひ合はせ

合をり

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

おの毛と捨ひ合はせ

合をり

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

おの毛と捨ひ合はせ

合をり

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

おの毛と捨ひ合はせ

合をり

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

鷹

ちの毛と指ひ合はるや年々わをの指見を以て己の如と
合をり一裡をよりなり能事と若むなり

鷹タカ 一羽
オー 一羽 一羽 一羽 一羽 一羽 一羽 一羽 一羽 一羽

一羽 ちの尾ま 侍者の雛子 侍者の一羽
ちまよーま 羽子 せと池 羽なり此鷹

雄々雌々の野と羽を 屋形尾 鷹の尾のまじり
やうにまじり

長尾毛 鷹の尾とく尻の 鷹の尾のまじり
とまじり毛なり

女一と一とふ 退羽打 鷹の尾を打つとまじり
なり

力系チカラキ 鷹のちとてなすれさりとまじり ちのさけひ
の根木の根と片足まじりなりと云

鷹とまじり 名味トシバ 一とまじりお前の腹まじり
とまじり

ぬくの毛 鷹の毛をまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり
とまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり

ぬまの毛 鷹の毛をまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり
とまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり

鷹の毛 仁徳をまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり
とまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり

ちまきとまじり 杜父魚カハク あらふ日か
とまじり

牡蠣カキ 一つ 一羽 ちの毛
とまじり

とりよーハエラと違
徳木也 ちん梅 榎のむ

水仙 金蓮花香
の薔薇引 ちん梅引 ちん梅引
薔引 茶引

薑川 ちん梅
言の下 日ミツナ
あ葉

葱 わが
羊舌 朝味香

玉子酒 湯豆腐
豆腐炒る 茹蕪少

難夷水 湯
そば湯 肝 肝

水漬 餅搗 車路 車路
餅搗 餅搗 未洗 車路 車路
ハ公 吉公香

若徒のぬ 沙走 年忘
沙走 沙走 沙走 沙走
沙走 沙走 沙走 沙走

年の布 年忘
年の布 年の布 年の布 年の布

螺 古札納 古札納
螺 螺 螺 螺
螺 螺 螺 螺

星佛 星佛
星佛 星佛 星佛 星佛

席の束 茶季候
席の束 席の束 席の束 席の束

宝弘妻 茶季候
宝弘妻 宝弘妻 宝弘妻 宝弘妻

一月の傍 衣記
一月の傍 一月の傍 一月の傍 一月の傍

園かん 衣記
園かん 園かん 園かん 園かん

三十日 佛名
三十日 三十日 三十日 三十日

くげ 法上
くげ くげ くげ くげ

年の暮 大年魂祭
年の暮 年の暮 年の暮 年の暮

掛取 掛取
掛取 掛取 掛取 掛取

大三十日 掛取
大三十日 大三十日 大三十日 大三十日

大三十日 掛取
大三十日 大三十日 大三十日 大三十日

粘
摺

明治歲時記
草卷の上
終

